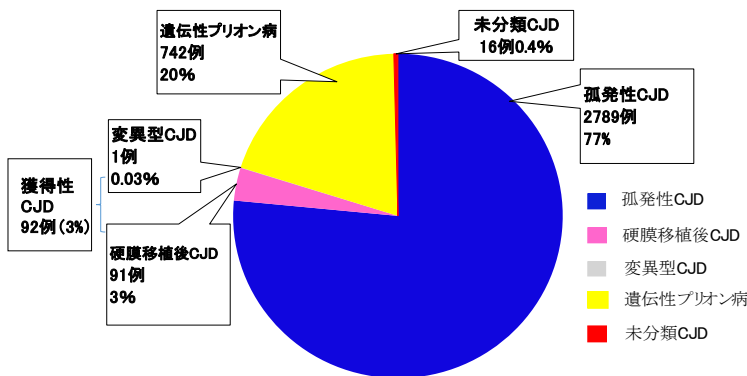


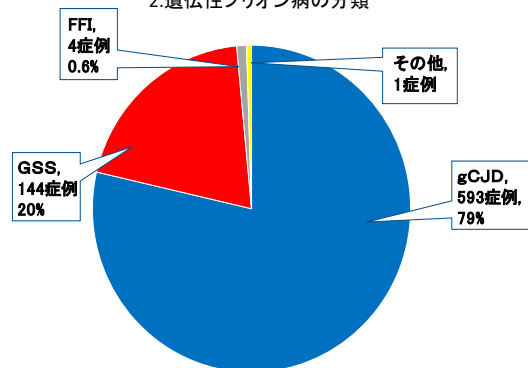
わが国のプリオン病のサーベイランス結果(～2019年9月)

研究分担者： 国立精神・神経医療研究センター 水澤 英洋

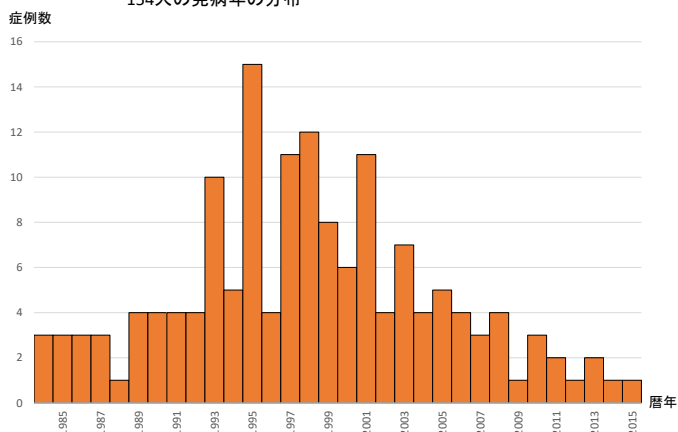
1.わが国における3639例のプリオン病症例の分類



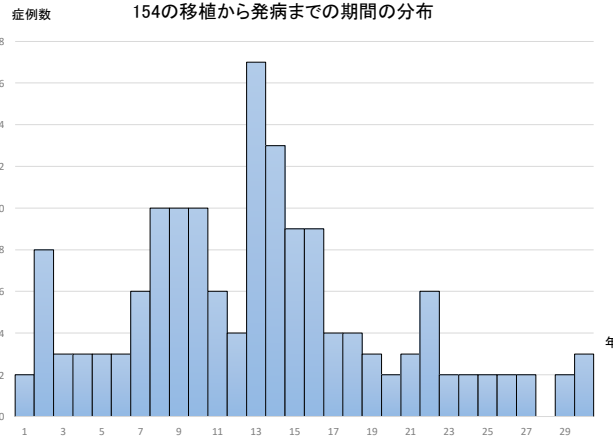
2.遺伝性プリオン病の分類



3.膜移植歴を有するクロイツフェルト・ヤコブ病患者 154人の発病年の分布



4.硬膜移植歴を有するクロイツフェルト・ヤコブ病 154の移植から発病までの期間の分布



解 説

1. CJDサーベイランス委員会は、平成11年4月1日から令和元年9月6日までに合計3639例のプリオン病を同定した。病型別にみると孤発性CJDが2789例(77%)、遺伝性プリオン病が742例(20%)、硬膜移植後CJDが91例(3%)、変異型1例(0.03%)であった。
2. 遺伝性プリオン病の変異別頻度は、V180I、P102L、E200K、M232R、他の順であった。
3. 硬膜移植後CJDの発生は減少傾向にある。硬膜移植後から発症までの年数の最長は30年であった。